

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果について

4月18日実施 小学校第6学年対象

1 調査について

(1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査内容

- 教科に関する調査(国語、算数)
 - ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
 - ・知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て、実践し評価・改善する力等
- 生活習慣や学習環境等に関する質問調査
 - ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

2 学校全体としての結果の概要

(1) 教科に関する調査

- 国語
 - ・「話すこと・聞くこと」において、話し言葉と書き言葉との違いに気付くことができています。
 - ・「読むこと」において、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができています。
 - ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができています。一方で、目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題が見られました。自分の考えが伝わるように文章を書くために、事実と感想、意見とを区別して書くことができるように指導します。また、集めた材料を書く目的や意図に応じて内容ごとにまとめたり、それらを互いに結び付けて関係を明確にしたりして書く学習活動を行っていきます。
- 算数
 - ・「数と計算」において、数量の関係を、□を用いた式に表すことができています。
 - ・「図形」において、直方体の見取図について理解し、かくことができています。
 - ・加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることができています。
 - ・「変化と関係」において、速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できています。しかし、道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することに課題が見られました。順序立てた説明の仕方について指導し、他の単元でも筋道立てて表現する機会を多く設けます。

(2) 生活習慣等に関する質問調査

- ・「自分には、よいところがある」「将来の夢や目標を持っている」「人が困っているときは進んで助ける」「人の役に立つ人間になりたい」「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる」「学校に行くのは楽しい」「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」の項目に高まりが見られます。
- ・本校の児童はテレビゲームや携帯電話・スマートフォン等の利用時間に課題があることが分かりました。今後も、生活時間の見直しを行い、計画的な家庭学習の習慣化について指導していきます。